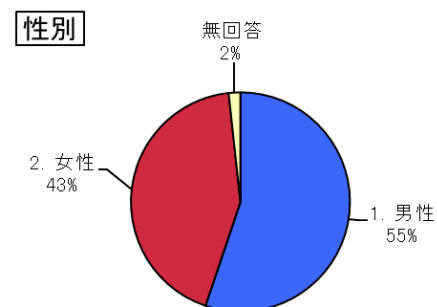


# 日本放射線影響学会第 62 回大会（京都） キャリアパス・男女共同参画アンケート集計結果

実施期間：2019年11月9日～11月25日（Google フォームを利用し、Web 経由で実施）  
回収数：58 件

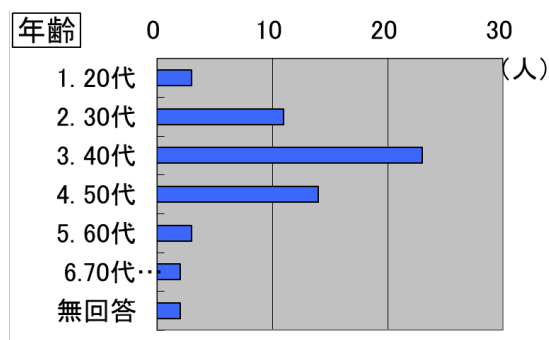
## Q1) 性別

性別	n	(%)
1. 男性	32	55
2. 女性	25	43
無回答	1	2
計	58	



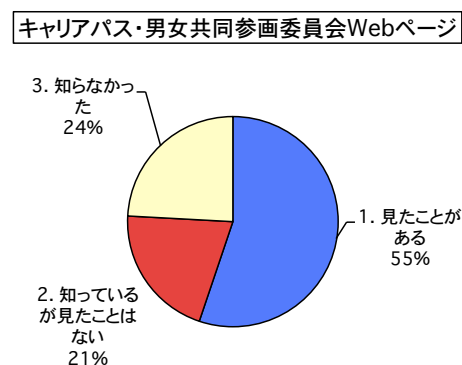
## Q2) 年齢

年齢	n	(%)
1. 20代	3	5
2. 30代	11	19
3. 40代	23	40
4. 50代	14	24
5. 60代	3	5
6. 70代以上	2	3
無回答	2	3
計	58	



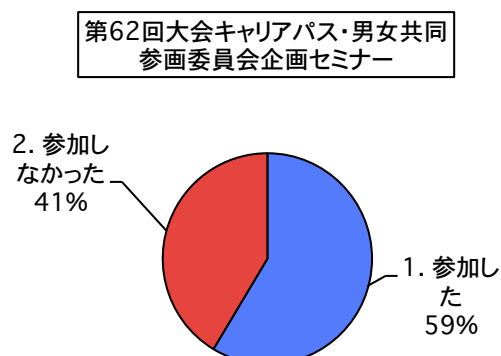
## Q3) キャリアパス・男女共同参画委員会 Web ページについて ([https://www.jrrs.org/about/gender\\_equality.html](https://www.jrrs.org/about/gender_equality.html))

キャリアパス・男女共同参画委員会Webページ	n	(%)
1. 見たことがある	32	55
2. 知っているが見たことはない	12	21
3. 知らなかった	14	24
計	58	



## Q4) 第 62 回大会キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー

第62回大会キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー	n	(%)
1. 参加した	34	59
2. 参加しなかった	24	41
計	58	



Q5) 第 62 回大会キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーの感想（自由回答）

セミナーの内容（講演＋パネル討論（リアルタイム意識調査付き））について：

- ・講演、パネルディスカッションが繋がっていてよかったと思います。昼食時に開催されたことで、参加者の集まりもよかったと思います。
- ・多数参加されていて良かったと思います。
- ・バランスのとれた講師とパネリストの人選に感服しました。特にシニアのパネリストお2人がとても良い味を出していました。進行の仕方も、事前に綿密に準備されたことが伝わってくる素晴らしいものでした。これまでのセミナーの中で最も参加者も多く、充実した内容でした。本当にお疲れ様でした。
- ・内容が充実していた。
- ・「1時間」の枠の中で、京都大学における男女共同参画の取り組みの紹介とパネル討論がバランスよく組み込まれていました。パネル討論では、時間が限られていたにも関わらず、会場の意識調査もうまく取り入れながら、さまざまな年代におけるキャリア形成の課題の話題が出るように工夫されており、座長を務められた委員長を中心とした抜群の進行力と企画力が感じられる内容でした。パネリストの人選も良く、シニアの研究者にもご登壇いただいたことで中堅層にとっても勇気づけられる内容になっていたと思います。若手にとっても有益なメッセージも多かっただけに、学生を含む若手の参加が少ないように見えたのが大変惜しいことでした。
- ・若い方に有益な情報が多いセミナーだったと思います。
- ・男女問わず、幅広い年齢の先生によるパネル討論よかったと思います。
- ・パネリストの年齢が幅広く多様性があったとてもよかった。リアルタイムのアンケートも新しい試みで良いと思った。
- ・今時のツールを使ってリアルタイムに反応を見ながらトークをする試みがとても良かった。様々な世代の先生から率直な意見が語られ、有用であった。
- ・リアルタイムの調査はなかなかおもしろかったです。
- ・様々なキャリアを通してこられた会員から、普段は聞けないようなご経験やご見解を拝聴できたことは、大変貴重でした。
- ・活躍されている先生方が、実は研究者以外のキャリアをお持ちで、様々なご苦勞を人との繋がりがやご家族の理解で乗り越えられてこられたことを知ることができ、若い方たちのキャリアの選択肢の幅を広げたのではないかと思います。また、子育てと仕事の両立にジレンマを抱えていらっしゃるというお話に共感し安心された女性もいらしたのではないのでしょうか。セミナー中のアンケートは自分の事を振り返る機会にもなり良かったと思います。
- ・メーカーで研究開発をしておりましたが、妊娠時に退職をしました。その後、やはり研究をしたいと思い、家事育児をしながら博士を取得し、現在大学で助教をしております。ですので、今回のご講演、パネル討論は大変勇気づけられる内容でした。家族の問題もありますが、海外留学も考えたいと思いました。ありがとうございました。
- ・日頃悩んでいる今後のキャリアについてや、育児と研究の両立などについて、年代や性別のさまざまなパネリストの先生方の話を聞いて、悩んでいるのは自分だけではないこと、さまざまな生き方があることを教わり、大変ためになりました。
- ・興味深いお話を聞いて、勉強になりましたし、励まされました。
- ・ロールモデルは自分で作り出すという藤通先生の言葉に共感しました。自身を取り巻く環境は他者とは異なるのだから、自分の選択が第一と思う。

- ・最後の島田先生（理事長）の言葉、「人は頑張っている人を助けたくなる。人に頼る者を助けようと思わない。」という言葉が印象的だった。
- ・活発な議論が交わされ、考えさせられる意見も多かったと思います。特に学生が Ph.D. を取った後には、アカデミア以外にも色々なキャリアの可能性があるという指摘は、重要と思います。一方、アカデミアでの任期付き雇用をもたらす不安定性は、我が国の科学技術の発展には極めてマイナスであり、関係省庁に学会としても様々な組織と連携しつつ国に対して改善を求めて行く必要を感じました。
- ・キャリアパスの多様性の紹介がよかった。
- ・非常にためになった。
- ・とても参考になりました。
- ・非常に参考になった。
- ・よかったと思います。

#### セミナーの時間、参加者層について：

- ・もう少し時間が欲しかったと思います。
- ・もう少し時間があつた方が良かった。
- ・若手の方が少ない印象でした。

Q6) 次回以降のキャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーの内容についての提案・要望  
(自由回答)

#### セミナーの時間枠について：

- ・今回のように大会1日目の昼の開催が続くと良いと思います。次回以降の大会事務局にも十分な時間枠の確保にご協力いただくと良いと思います。
- ・もう少し時間枠を拡大できればと思います。

#### セミナーの内容について：

- ・双方向コミュニケーションの試みは、とても良かったと思います。是非、次回以降はもっと取り入れて欲しいと思います。
- ・多様なキャリアパスの事例紹介や会場内でのテーブルディスカッションなどの意見交換の時間も持てると良いように思います。
- ・退官後の研究に対する向き合い方、セカンドキャリアの開始について
- ・うまく回らない事例、どう乗り切ったのかなど、どちらかと云えば素敵ではない話を取り上げてほしい。
- ・企業等の人事担当者を招聘したセミナー
- ・大学や企業などで人事権がある先生が、採用という目線でキャリアパスの現状を語る。
- ・行政（文科省、規制庁など）の参加
- ・もう少し内容を絞った方がいい。
- ・今のところ、特にアイデアはありません。

#### 若手の参加が少ないことに対する対策について：

- ・学生の参加が少ないです。軽食配布で学生を優先してはいかがでしょうか。

- ・もう少し若手研究者、大学院生の参加があってもよかった。
- ・今回的人選が素晴らしかった。ただ、若手の方の聴講数が明らかに少なく、中堅以上の聴講者が多かった。一番、聴講が必要な若手の方に聞いてもらえるよう工夫することが必要だと思われる。リアルタイムの参加を促す活動以外に、例えば、動画を撮影して、影響学会 HP で配信するなど若手の方も後から見られるように工夫することも有効だと思われる。
- ・キャリアパスと男女参画は少し内容が異なり、キャリアパスだけに若手学生が参加したいのではないのかと思います。分けてのセミナー企画はなかなか難しいでしょうか。。

Q7) 第 63 回大会（2020 年 10 月 15 日～17 日、福島で開催予定）での開催地での保育サービスの利用を必要とされる未就学児の人数

計 4 人

Q8) 第 64 回大会（2021 年 9 月 22 日～24 日、茨城で開催予定）での開催地での保育サービスの利用を必要とされる未就学児の人数

計 4 人

Q9) 第 65 回大会（2022 年秋に大阪で開催予定）での開催地での保育サービスの利用を必要とされる未就学児の人数

計 2 人

Q10) 本学会の実情に即した託児支援のあり方や運営に関する意見や提案（自由回答）

（Q10 の内容：本学会では、初めての試みとして、第 61 回大会と第 62 回大会で年次大会の会場内に託児室を設置しました。その結果、利用者数が少ないこと（1-3 名/回）、開催地によっては、保育の質が高く、かつ、学会の財政状況に見合ったリーズナブルな託児委託会社の検索と選定が難しいこと、託児室設置のための業務量の負担が大きい一方、その業務を外注するには高額がかかることなど、新たに解決すべき課題が浮上しました。本学会のように、財務に余裕のない小規模の学会における年次大会時の託児支援とその運営のあり方について、どのようなオプションが考えられるか、ご提案があればお書きください。）

**会場内託児をできれば続けて欲しい、年次大会運営者・各開催地の尽力を：**

- ・会場内託児は素晴らしい試みであり、ご尽力に感謝いたします。やはり、会場外よりも会場内託児が安心かつ圧倒的に便利で、集中して学会に参加できると思います。学会内託児室を設置できないとしても、自身で保育者（親族またはシッター）を手配した際に、一室をお借りできる仕組みがあれば良いのではないのでしょうか。育児が落ち着いたのでやっと学会に参加できたという方もいらっしゃると思いますので、現在そういった状況にある方を拾い上げていただくことが、女性参加率の向上にもつながるかと思います。また、託児室開室を含む制度の存在・存続自体が、キャリアパスに悩む学生・若手の安心材料になり、背中を押してくれるものであると思います。
- ・10 年前子供が 1 歳くらいの時、まだ託児所がないとき本学会に参加して、母と一緒に来てもら

いましたが、不便な思いをしました。今は託児所があり、子育て中の女性研究者が安心して子供を預けられて、学会も集中して参加できると思います。私は子供が大きくなり、託児所の必要はなくなりましたが、運営が厳しいことで託児所をどのように続けるか、良いアイデアが浮かびませんが、できれば続けてほしいと思います。

- ・事前に託児室を必要な方の人数をアンケートで確定し、必要な人数に応じて、年次大会運営者の中で育児経験のある女性にも助力を願い、託児委託会社にも助力を前提とした委託の検討を打診する。
- ・まず、各開催地の役所へまめに日参して手を組み、地方自治体と国家政府の支援の拡張と並走し、またそれを先導する。学会として文科省へ要望書活動・広報活動などを不断に行うこと。上部の学協会団体に任せきりにしないこと。各開催地毎に毎年そのようなキャンペーン活動を行うこと。などなら費用はいらない。本学会だけで解決しようとする、託児企業との相対一の取引になってしまう。
- ・会員数が少なくても託児室を設置している他学会の取り組みについて情報を収集してはいかがでしょうか。

#### **開催地周辺での一時保育の実施：**

- ・開催地周辺の保育所での1日保育は難しいでしょうか？
- ・大学内の託児施設で一時保育を受け入れて下さらないでしょうか。
- ・案1：対象とする年齢の幅を見直す必要がある。012歳を諦め、345歳を対象とするのはどうか。  
案2：大会長の所属大学に保育所がある場合には、そこに一時保育をお願いする。

#### **託児室が設置できなくてもやむを得ない：**

- ・学会の規模を考えると、もともと少ないことは仕方がない。担当理事や委員の負担は増やすべきでなく、学会として負担ができないのであれば、希望者が少ない場合に設置できないのもやむを得ない。
- ・余裕がないのに設ける必要はない。
- ・利用させていただきましたが、会場に託児施設を設置するメリットは感じませんでした。
- ・託児室がおけない、という選択も諸々の事情によってはあっていいと思います。どういう予算立てをしていらっしゃるかわかりませんが、託児がないから参加できない方へは、参加費や次年度年会費の減額などの優遇措置で還元するというのも一つの方法だと思います。今年度の設置分も上乘せできるから、来年度はきちんと設置します、という話だっていいのではないのでしょうか。いろんな学会と紐づいて、あちこちの会場に保育士を派遣してくださるような業者が出てくるといいのかもしれませんが…。その辺を子どもたちが走り回っててもいいような学会が増えるといいなあ、とは思います。

#### **開催地での託児サービスの紹介にとどめる：**

- ・学会としてお金をあまり支払えないという条件のもとでは、結局、担当理事をはじめとする運営側に過度の負担がかかってしまうと思います。まずは、大会開催地での託児サービスの情報を大会事務局から提供していただけるだけでも十分ではないかと思います。
- ・サービス紹介にとどめ、利用については会員に選択を委ねてはどうだろうか。
- ・このようなアンケートを通じて調査を継続しつつ、しばらくは紹介に止めるのが良いと思います。

### 開催地での託児サービスの紹介+学会からの費用の一部補助：

- ・近くの託児施設を案内することや、その費用の一部補助を学会として検討してはいかがでしょうか。
- ・近隣託児施設の情報提供、託児料金の一部補助など。
- ・2日目の会員総会で委員長がおっしゃっていた方法（開催地における託児サービスの紹介と学会からの費用支援）が、本学会の現状を考えると、最もリーズナブルであるように思います。
- ・総会で報告されていたようなやり方がリーズナブルだと思う。

### 学会からの費用の一部補助のみ：

- ・少人数ということであれば、託児施設を利用者が自ら見つけて、費用（の一部）を補助するのがよいかと思いました。
- ・託児所の設置をやめるのであれば、3歳以下の幼児を連れて参加する会員が帯同者（両親など手伝ってくれる方）のホテル代や交通費の一部を負担する方法もありだと思う。
- ・他学会で実施している個学会員への経済的支援（全体、個人の上限あり）の検討

### その他(会場内の育児スペースの確保、子連れでの会場入りの許可、在宅での学会参加等)：

- ・せめて家族がこどもの育児にゆっくり対応できる場所の確保
- ・託児を依頼できる家族・親族を同伴者として登録できる制度と、託児とその同伴者が期間中いることができるスペース（部屋、ベビーベッド、湯沸かし等完備）の確保。
- ・よく、コンサートホールなどではガラスで仕切られた部屋があり、そこで子供をあやしながら鑑賞できる場所があります。そういった場所があればいいですね。
- ・子どもと一緒に講演会場やポスター会場に入室できるようにすること。
- ・ウェビナー等を利用した在宅での学会参加
- ・具体的な代案は、まだ思いつかないです・ ・

Q11) キャリアパス・男女共同参画に関する意見（自由回答）

### 活動の継続を：

- ・大事な活動と思います。今後も期待しています。
- ・学会として支えていくべき活動だと思います。
- ・大変なご苦労を伴う活動だと思います。今後は、より多くの学会員が、このような活動の継続のために協力をし、少しでも貢献をしていくことが重要であると思います。
- ・若手会員の関心が重要と思います。

### セミナーへの期待：

- ・お疲れ様でした。
- ・今後とも大会における魅力的な内容のセミナーを期待しています。ありがとうございました。
- ・ラボ内で起きた男女共同参画に伴う良かったことや問題点、ラボとしての取り組みなどの具体例を紹介してほしい。

### 人材育成と他学会との連携：

- ・放射線取扱主任者をはじめとする資格を持っているとポスト獲得に有利ではないかと思えます。
- ・ますます人材確保が必要な原子力・放射線利用・安全関係の他の学会群と協力することが効果的。
- ・他学会での取り組みを調査し、赤本などに紹介する。

#### 委員会ホームページの周知：

- ・ホームページでキャリアパス・男女共同参画活動についての情報が見られることをよく知りませんでした。もし今後の学会に参加できない場合、活動やセミナーの内容をホームページで知ることができれば、ありがたいと思えます。

#### 学会の役割について：

・私にとっては、今回の稲葉先生の話は定型的で面白くはありませんでした。一つには男女共同参画の対象を誰にするのか、という点です。男女共同参画というのはダイバーシティの推進です。その意義は、広く人材を登用し、ジェンダーの違いやマイノリティが故に陽の目を見れない、すなわち優秀な人材が埋もれるのを防ぐ、という意味があると私は思います。これは大学や会社などの組織には当てはまるかと。ただ、学会となると、今回の取り組み、例えば稲葉先生のお話のような京大の取り組みといったことを聞いたとして、誰がその価値を共有できたのだろうか、と思いました。

シニアのお二人のお話は非常によかったです。ストレートに進まないのが当たり前の世界ですし、そうでなければ今後の多様にならざるを得ない研究の世界で後進の指導ができるべくもありません。

若い女性のお話もよかったです。新卒を生かす、こういう自由な発想で進路を決めるべきだと思いました。アカデミックに残る、というのは本当に今後あるべきアカデミアの姿なのか、と最近では思います。

なぜ学会は存在するのか？どうすれば研究や事業、技術の研鑽を真剣に推進できる学会にできるのか？どうすれば優秀な人材を集め、分野を牽引できる学会にできるのか？というのを真剣に考えなければなりません。何かを与えるのが学会の役割ではありません。与えればそれに頼る人ばかりが寄ってくることになります。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。

本アンケートの結果を、今後の大会でのセミナーの企画・託児支援のあり方の検討、および、委員会の活動に生かしていきたいと思えます。

今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本放射線影響学会  
キャリアパス・男女共同参画委員会